

1. 単 元 名 「『徒然草』を読み、古人と現代人の考え方を比べよう」

教材名：『徒然草』 「高名の木登り」(第百九段)

2. 単元について 生徒は1年生で学習した「竹取物語」において歴史的仮名遣いや古語にふれる学習をしている。2年生においても、前期に「平家物語」を学習し、和漢混淆文の独特なリズムや歴史的仮名遣いについて学習している。

今回の随筆の学習でも、まず音読を通して古典の持つ独特のリズムに慣れさせ、歴史的仮名遣いや古語に注意しながら読める力を養いたい。また、古文特有の表現の仕方や文章の特徴にも気づかせていきたい。その上で、古人のものの見方や考え方について想像させ、自分や現代人と比較し、相違点や共通点について考えさせていきたい。

また、3年生で学習する「おくのほそ道」につなげていけるように、古文の音読や係り結びなどの基礎的な内容について理解させたい。

本時で扱う作品は教科書には載っていない教材であるが、資料集には必ずと言っていいほど載っている有名な作品であり、中学生が読むのに良い作品である。漫画や現代語訳されたものを通して、筆者の考え方にふれ、古人の考え方や価値観をとらえやすくし、現代にも生きる徒然草の世界を読み取らせたい。

3. 生徒の実態

授業の様子は、学習にまじめに取り組んでいる。音読でも大きな声が出ている。特に物語への関心が高く、意見も活発にでる。しかし、積極的に発言する生徒は固定化している実態がある。今回は発表する前にしっかりと考える時間や記入する時間をとり、全員が意見を持って発表できるようにしていきたい。

1年時の「竹取物語」においては、自分たちが知っている昔話が、実は古典を元にしてしているものだと知り、大きく驚いた反面、親しみをもち学習することが出来た。しかし、歴史的仮名遣いや古語にとまどった生徒もおり、まだまだ古典の基礎的な事項に習熟していない生徒も多い。2年前期の「平家物語」においても独特なリズムや「係り結び」にとまどう生徒がいた。

今回はさらに、筆者のものの見方や考え方について書き表された古典文章にふれることにより、古人との共通点を見つけ、古典への興味・関心を育てていきたい。

関心・意欲・態度

他の教科に比べ、「内容が理解できる」と感じる生徒が多く、学級全体として「わかるようになりたい」という意欲を感じる。しかし、難解な文や古典、文法など、努力を要する課題にあたると、意欲をもち続けられない生徒も多い。段階を追って説明したり、繰り返し同じ内容を行うことで、「わかるようになった」という達成感を味わわせながら進めていきたい。

話すこと・聞くこと

おしゃべりは得意な生徒が多いが、ルールを守って話をしたり、改まった場面で話すことに抵抗を示す生徒が多い。また、他者の話をポイントを押さえながら聞いたり、順序を追って話を聞くことが苦手な生徒が多い。話すこと・聞くことのルールをしっかりと定着させていくことが必要である。

書くこと

事実を順序立てて書くことは比較的できるが、自分の思いや感想を盛り込んだ文章を書くことには課題が残る。事実と気持ちを分けて書けるような指導が必要である。

読むこと

文章の内容を部分的に理解することはかなりの生徒ができるようになってきた。しかし、文章全体を要約したり、主題をつかむとなると、課題のある生徒が多い。たくさん文章にふれたり、様々な種類の文章に触れる機会を増やし、文章全体から主題を考えられるようにする必要がある。

言語に関する知識・理解・技能

文法に対して苦手意識を持つ生徒が多い。また、漢字に関しても小学校高学年の漢字が書けない生徒も多い。繰り返し学習する機会を設定する必要がある。

4. 研究の視点のとのかわり

視点1 「基礎的・基本的な知識や技能を習得および活用する学習活動」と「これまでに培われてきた力を発揮して問題解決に取り組む探究的な学習活動」を効果的に盛り込んだ単元構成の工夫改善

「公世の二位のせうとに」と「仁和寺の法師」で習得した文章の特徴、教訓を導き出す学習を通して、「高名の木登り」を読み、教訓と自分の経験を関連づけて考える授業へと単元構成を工夫した。

視点2 問題解決的な学習を基盤とし、「課題意識(問題意識)」を持ちながら、解決に向けた「自分なりの考え」をもとに「仲間と共に学び合う場」を意図的に設定した学習課程とその指導のあり方の工夫改善

教訓と自分の経験を関連づけて考え、それを小集団で交流することにより、考えを深め、筆者の人間観の中に自分と共通するもの見方や考え方があることに気づかせるように展開を工夫した。

視点3 単元を通した意図的・計画的な評価を次の指導に生かしていくための工夫改善

机間巡視の時に座席表を活用し、個々の生徒の考えを掴んでおくことで全体交流での意見の紹介につなげたり、評価に役立てることが出来た。

5. 単元の目標

古文に親しみを持ち、進んで学習しようとする。(関・意・態)  
 古文を読み、古人の生き方や考え方をとらえ、現代人の感じ方・考え方と比較し、共通点や相違点をとらえる。(読む)  
 歴史的仮名遣いや表現の特徴に注意して、正しく音読する。(知・理)

6. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	知識・理解
単元の学習に関心を持ち、目標を理解して学習することができる。			『徒然草』の文章構成について気づくことができる。 教訓を読み取り、自分の経験と関連づけて考えることができる。 筆者の人間観の中に、自分と共通するもの見方や考え方があることに気づくことができる。	歴史的仮名遣いに注意し、正確に読むことができる。

7. 教材の指導と評価の計画

時間	目標、主な学習活動	視点1 教科書の教材で文章の特徴、教訓を導き出す流れの確認をし、「高名の木登り」を学習することで教訓と自分の経験を関連づけて考える単元構成の工夫をした。	知	評価資料
1 2	「公世の二位のせうとに」と「仁和寺にある法師」を読み、『徒然草』の文章の特徴に気付く。 歴史的仮名遣いに注意して音読する。 注意すべき語句や表現について理解する。 二つの文章を読み比べ、『徒然草』の文章の特徴について考える。	『徒然草』にはエピソードが書かれており、そこから教訓が導き出せることに気づかせる。		観察  ノート
3	「高名の木登り」を読み、自分の経験と関連づけて考える。	「高名の木登り」のエピソードと同じような経験がないか		

(本時)	<p>教訓と自分の経験とを関連づけて考え、考えたことを交流する。          古人の考えに現代人に通じるものがあることに気づく。</p>	<p>を考えさせ、交流できるようにする。          ワークシート</p>					<p>観察・ワークシート          観察・ワークシート</p>
------	---	--	--	--	--	--	---

8. 本時案 ( 3 / 3 時間目 )

( 1 ) 本時の目標

「高名の木登り」の教訓を自分の経験と関連づけて考え、交流できる。  
 古人の考えには現代人に通じるものがあることに気付く。

( 2 ) 本時の展開

学習課程	生徒の活動	教師の活動	形態	評価の視点
導入 2	『徒然草』の文章の特徴について思い出す。 エピソードと教訓がある	前時までの確認	全体	評価の場面 Cの生徒に対する支援
展開 43	課題：「高名の木登り」の内容と同じような経験を交流し、昔の人の考え方を読み取ろう。			
	<p>漫画・現代語訳・原文（現代語訳付）の「高名の木登り」を読み、おおよその内容を知る。          原文プリントを音読する。</p> <p>どんな内容だったかを発表する。          油断するな。          調子に乗ると危ないぞ。          同じような経験をワークシートに記入する。  <b>【自己決定】</b>          部活動での失敗談          教訓と関係のない失敗談書いたものを各グループの中で交流し、一番近い体験を選び出し、教訓を考える。  <b>【共感的理解】</b>          選ばれたものを、画用紙に記入し、他の人は発表準備をする。  <b>【自己存在感】</b>          各グループの発表          プリントを読み、『高名の木登り』の教訓を確認する。</p>	<p>プリントを読み、内容を読み取るように指示。          ワークシート・プリント を配布。</p> <p>範読をし、その後追い読みをさせる。          内容を確認する。</p> <p>同じような経験を思いだし、記入するように指示。          書けていない生徒に積極的に声かけする。  <b>【自己存在感】</b>          グループ交流を支援          メモをとりながら聞き合う          批判するのではなく、良い点を探すように助言          発表準備を指示          画用紙・ペンを配布</p> <p>発表するように指示          プリント を配布し、教訓について確認。          筆者の挙げている例を示す。</p>	<p>個</p> <p>グループ</p> <p>全体</p>	<p>視点2 小集団交流することで、考えを深め、筆者の人間観と共通するものの見方や考え方に気づかせるように展開を工夫した。</p> <p>挙げているか。          部活動や体育の授業など、具体的な経験を考えさせる。          机間巡視          自分の経験や考えを積極的に発表しているか。</p> <p>視点3 机間巡視の時に座席表を活用し、ここの生徒の考えを掴み、全体交流での意見紹介につなげる。</p>
	教訓：気が緩んだときが最も危険なので、油断してはいけない。			
	プリントを読み、筆者の挙げた例を知る。			
まとめ 5	『徒然草』を学習して感じたことを書く。 他人の意見を聞く。 昔の人の考え方は、今の私たちと同じである。	<p>今までの学習を想起させる。          指名するときの参考となるように内容を確認する。          指名して発表させる。</p> <p>次時予告</p>		<p>ワークシート          古人と自分達の考えに共通点があることに気付いているか。</p>
	次時に向け意欲を持つ。	次時予告		